

(別紙8)

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 2月 17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	171401276		
法人名	有限責任中間法人 帆の歌		
事業所名	グループホーム 海笛の家		
所在地	函館市若松町2番1号 (電話) 0138-22-1717		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東1		
訪問調査日	平成20年2月14日	評価確定日	平成20年2月28日

【情報提供票より】 (平成20年 1月 29日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 8月 20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 16人, 非常勤 0人, 常勤換算	8.6人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	4階建ての ~ 2・3 階部分		

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円 (生活保護受給者28000円)	その他の経費(月額)	光熱水費 20,000 円 暖房費 5,000円(10-4)
敷金	有 ( 円 )	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円 )	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500 円		

## (4) 利用者の概要 (1月 29日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	2	要介護2	8
要介護3	7	要介護4	1
要介護5		要支援2	
年齢	平均 83 歳	最低 76 歳	最高 96 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	保浦内科・脳神経セントラルクリニック・藤岡眼科・富田病院・佐藤歯科・共愛会病院・大村病院・やなせ皮膚科・川瀬耳鼻咽喉科
---------	---

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

連絡船のドラの音、汽笛の鳴る音が聞こえる函館駅前生まれ育った運営者は、時代と共に高層ビルが建ち、変貌する一方の町並みの中で、認知症になっても地域に愛着があり去りたい想いでいる人々のために、生家である旅館跡地にグループホーム海笛の家を設立した。ホームは函館駅前の中心地に位置し、利用者は、街の散歩や買い物等を楽しめる環境にある。地域の協力医はホームの運営方針の良き理解者で、24時間体制で医療面を支え、家族の安心に繋がっている。家族会の活動も活発であり、管理者と職員は一人ひとりの想いを大切に、住みなれた地域で、尊厳を守り家族として楽しく生活ができるよう支援している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価は2回目である。前回評価の改善点は全体会議の中で全職員が共有し、改善に取り組み、記録してある。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の記録者は昨年1月に着任した管理者であり、全職員の意見を取り入れて文書化したので、取り組んでいきたい項目に全部〇印をしているが、調査の結果では、すでに取り組んでいる内容もある。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は8回実施しており、参加者の意見交換は活発であるが前回の外部評価については公表していないので、次回の運営推進会議には議題にし今後のサービスの向上に活かすことを期待する。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関入り口に苦情、相談の記入用紙とポストを設置したり、家族の訪問時に気軽に話し合える雰囲気作りを努めており、提出された意見や要望はミーティングや全体会議の中で話し合い反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者の希望で昔食べたおせち料理を、町会の女性部がホームで調理してお正月のお祝いをしたり、幼稚園児が手製のクリスマスプレゼントを持って訪れたり、小学校の学芸会に招待されるなど交流は盛んである。今後町会の老人クラブと合同で、地区の住職による説法を計画している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で安心した暮らしと、利用者や職員が一体となり生活のリズムに合わせた柔軟な支援を事業所の理念にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、朝のミーティングで唱和を行い、申し送りノートや、業務日誌の中でも理念に外れることのないように確認しあい共有している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町会の女性部によるおせち料理をホームで調理したり、幼稚園児35名が手製のクリスマスプレゼントを持っての訪問、小学校の学芸会に招待されるなど、地域との交流は盛んに行われている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員は、自己評価や外部評価の意義を理解しており、全体会議の中で検討し改善に向けて努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は8回実施しており意見交換は活発に行われているが、前回の、外部評価については議題にしていない。	○	次回の運営推進会議には、今回実施した評価内容を議題とし、今後のサービスと質の向上に活かしていくことを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所の民生課からの相談を受けたり、ホームからも問い合わせや研修など、常に連携をして取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回は家族に写真と手紙を添え、職員の異動がある時は写真とメッセージを書き込み報告している。来訪時には、個人別写真集で近況を報告している。金銭は全て立替払いをしており月末に領収書を添えて家族に請求し金銭出納帳に記録している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入り口に苦情、相談の記入用紙とポストを設置したり、家族会の会議の時などに意見を聞いて、全職員に周知して運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、ユニット間での職員の入れ替えはしない方針であるが、異動があった場合は、利用者のダメージを防ぐために1か月は、日勤体制をとるなど配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ協議会研修や近郊での研修会に段階に応じて職員は参加していて、全体会議の中で報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などでは同業者との形式的交流はあるが、他の同業事業所の見学、相互交流を職員は希望しているので、運営者の理解が望まれる	○	運営者も相互交流や見学または研修の必要性を理解しているので実現できることを期待する。
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に自宅を訪問し面会を2～3回行い、家族と一緒にホームを見学してもらうなど、1か月位の余裕を持って利用者の不安の解消に配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に利用者と一緒に生活しているという意識を持っていて、漬物作りを教わったり、味付けを教えてもらうなど、利用者から経験や知恵を学ぶことがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員はその人らしく暮らし続けるために、本人の意向を大切に臨機応変に対応している。意思疎通が困難な利用者には家族からの情報や表情などから読み取り、支援している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを含め担当者会議などで、利用者や家族の希望、要望などについて全職員で意見交換して介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1度を見直しの基本としているが、状態の変化のある時は医師、家族などに相談して、随時変更し作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者と家族の要望でお盆やお正月の外泊、外出支援、早期退院の支援など臨機応変に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりの利用者のかかりつけ医を把握し、家族と相談のうえ支援している。地域の医院が24時間体制で相談や訪問診療をしてくれるので、夜間の対応についても、家族は安心している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族と今後の方針について話し合っているが、状態の変化がみられた場合は、医師、家族などチームで話し合っている。		
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の記録は所管の場所に保管し管理している。職員は尿は春、便は夏などの暗号を使いプライバシーに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や朝食時間はまちまちで、一人ひとりのペースに合わせ支援している。日中の散歩、買い物など、その日にしたいことを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の盛り付けや後かたづけをし、楽しい食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のタイミングにあわせて、入浴支援をしている。無理強いせず、失禁などがあった場合はその都度支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の得意分野を把握しており、4階のコミュニティルームにはカラオケ、ゲーム用品などがあり、屋上は広く夏にはプランターで花や野菜を作るなど楽しみや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬季以外は、函館駅前の散歩を楽しんだり、お花見やドライブなど、多方面に外出しているのを写真集で確認した。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。1階に事務所があり常に職員がいるので出入りを確認できるが、夜は防犯のために施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署に依頼して年2回、非難訓練を行っている。非常口や緊急時の対応の指導を受け、用具一式も備えており、町会の役員も参加している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立や食材は外注業者に委託しているので、栄養のバランスは確保しているが、利用者の嗜好は取り入れていない。水分摂取は意識して支援しておりバイタルチェック表に克明に記載している。	○	利用者の嗜好を大切にし、季節の食材を取り入れた献立を、職員や家族の情報とアイディアを取り入れ支援することを期待する。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームはオール電化でセキュリティも万全である。廊下、居間、浴室などは広くて明るく採光もほど良い。街の眺めの良い居間は、不快な音などもなく、時節がら利用者が作ったおひな様が飾ってあり、居心地のよい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にトイレと洗面台があり、使い慣れた家具や生活用品は持ち込み自由で、大好きな歌手のポスターを貼るなど、本人が居心地よく過ごせる工夫がなされている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。